

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻

細井英司*

はじめに

徳島大学は、昭和 24(1949)年 5 月 31 日に国立大学法人徳島大学(学芸学部・医学部・工学部の 3 学部)として設置され、2019 年度創立 70 年を迎える。現在、総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部の 6 学部、さらに大学院には総合科学教育部、医科学教育部、口腔科学教育部、薬科学教育部、栄養生命科学教育部、保健科学教育部、先端技術科学教育部、社会産業理工学研究部、医歯薬学研究部が設けられています。その他の施設として、教養教育院、先端酵素学研究所および徳島大学病院などが附属しており、総合大学として教育・研究環境を整えています。

本稿では、徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻における概要・沿革・最近の動向・特色などについてご紹介いたします。

I. 徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻の概要

徳島大学は 2 つのキャンパス(蔵本、常三島)があります。蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部の 3 学部・3 教育部および先端酵素学研究所と病院などがあり、お互いに連携しあって教育・研究環境を整えています(写真 1)。さらに医学部は、「医学科」、「医科学栄養学科」および「保健学科」の 3 学科で構成されています。保健学科は平成 13 年 10 月に発足し、高度化、専門化する医療を支え、保健・医療・福祉において多様

写真 1 徳島大学蔵本キャンパス(文献²⁾より引用)

*徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻 hosoi@tokushima-u.ac.jp



写真2 徳島大学医学部保健学科

化するニーズに対応できる専門的知識や技術を有する有能な医療人を養成することを目指しています。現在、保健学科には検査技術科学専攻、放射線技術学専攻、看護学専攻の3専攻があり、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師、保健師、助産師が養成されています。

1. 沿革

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻は、昭和38(1963)年に徳島大学医学部附属衛生検査技師学校として設置された後、昭和47(1972)年からは徳島大学医学部附属臨床検査技師学校(平成2年3月廃止)として臨床検査技師教育が行われてきました。昭和62(1987)年には徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科(平成17年3月廃止)が設置され、平成13(2001)年には徳島大学医学部保健学科(検査技術科学専攻)として4年制教育がスタートしました。その後、平成18(2006)年に大学院保健科学教育部修士課程保健学専攻(平成20(2008)年に修士課程を【博士前期課程】に改称)、平成20(2008)年には【博士後期課程】が設置され、現在に至っています(写真2)。

2. 教育組織と教員組織

四国で唯一、臨床検査技師教育を行っている国立大学であり、さらに全国の国立大学臨床検査技師養成校の中で、学生定員が20名(他校は40名)と最も少なく、小人数制のきめ細かな教育を行っています。検査技術科学専攻には機能系検査学講座と形態系検査学講座の2講座(4分野)があり、

機能系検査学講座には生体機能解析学分野と細胞・免疫解析学分野、形態系検査学講座には微生物・遺伝子解析学分野と病理解析学分野の各2分野が設けられています。

専任教員は教授4名、准教授2名、助教3名の計9名ですが、臨床検査、理学部、薬学部、医学部の各分野の出身者で構成されており、それぞれの専門的知識・経験を活かし、教育運営を工夫し、全教員が専門性に特化した研究に力を入れ、学部・大学院での教育・研究の充実化を図っています。

3. 学部教育の理念と教育目標

a. 専攻の理念

生命の尊厳、医の倫理を理解し、広い教養と専門知識を持ち、広く国民の保健医療の向上と発展に寄与できる想像性豊かな臨床検査技術者の養成を目指します。

b. 教育目標

- ・基礎教育を充実し、幅広い知識と創造性を養うことにより、生命の尊厳、医の倫理、医療の進むべき道を理解できるような全人教育を行います。
- ・医療技術の専門家、高度化、多様化に柔軟に対処できるように、高度の専門的知識と技術を学びます。
- ・普段の研究を通じて、医療の発展に貢献できる学際的・国際的人材を養成します。
- ・教育機関における指導者、地域医療の場におけ

るリーダーとなるべき人材を育成します。

- ・疾病発生と環境とのかかわりを重視し、環境科学教育を行います。

(徳島大学ホームページより抜粋)

4. 最近の動向と特色

a. 新入生を対象とした早期教育の取り組み

徳島大学では、平成26年度より「鉄は熱いうちに打て(Strike while the Iron is Hot)」の精神に則り、入学直後の1年生を対象としたプログラム「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門」を実施しています。検査技術科学専攻では、早期体験授業〔①先輩からのメッセージ(目的：各自の将来像について考える)、②保健学科新入生研修ワークショップ(目的：ラーニングスキルの獲得)、③大学院のすすめ(目的：将来像の一つの選択肢として大学院進学を考える)、④チーム医療入門(目的：文章力、協働力、プレゼン力の獲得)]を実施し、自身の専門分野である臨床検査学や臨床検査における先端研究への興味・関心を喚起し、大学での学修・研究に対する動機づけを行っています。

b. 4年間の教育カリキュラムの流れ

1年次は、週3日は常三島キャンパスにて「教養教育科目」を、残りの2日は蔵本キャンパスにおいて「学科共通科目」と「専門科目の一部」を履修し、「専門教育科目」に入る前の基礎知識を身に付けます(2年次以降は蔵本キャンパス)。この1年間は将来の研究や専門分野への基盤になります。大学入学後の4月にSIH道場プログラム、9月には医・歯・薬合同のチーム医療が開催され、多職種連携の重要性を学びます。2～3年次前期では、学科共通科目および専門科目を学び、3年

次後期から各専門科目における学内での集中実習がスタートします。全科目の実習終了後、実技OSCE(Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験)が実施されます。最終学年4年次の4月には、知識OSCE、接遇、徳島県赤十字血液センターでの見学実習、臨地実習オリエンテーション(学内・徳島大学病院検査部)が行われ、5～7月に臨地実習(徳島大学病院検査部・輸血部・病理部・超音波センター)が実施されます。また、9～12月の約3ヵ月間には各専門分野の指導教員のもとで卒業研究が行われ、12月の初めにその研究成果を徳島県臨床検査技師会主催の徳島県医学検査学会で発表します。その後、国家試験に向けての本格的な勉強が始まり、2月末に臨床検査技師国家試験を受けることになります。3月末に合格発表があり、これまでの4年間の努力が成果として認められます。

II. 大学院保健科学教育部医用検査学領域の概要

大学院では、高度化した医療診断技術を得得し、新しい検査法や解析法の開発を研究する人材の養成を目指しています。医用検査学領域には、「博士前期課程」として先端医用技術・支援学分野、「博士後期課程」には病態制御保健学分野が設けられています(表)。本領域では、生理機能解析学、微生物・遺伝子検査学、病理解析学、細胞・免疫解析学、生殖補助医療学、がんの遺伝子解析学等の研究手法を用いて新しい検査法や解析法の開発と研究を進めています。また、臨床現場での要請に即応した先端医療技術に習熟し、かつ生命倫理を尊重する高度専門家教育を行い、医療現場において自立した研究を展開できる臨床検査技師、大

表 博士前期課程および博士後期課程(医用検査学領域)

博士前期課程(分野)	専門
先端医用技術・支援学	生体機能解析学、微生物・遺伝子解析学、病理解析学、細胞・免疫解析学、生殖補助医療学、腫瘍制御学、細胞・分子機能解析学
博士後期課程(分野)	専門
病態制御保健学	生体機能解析学、微生物・遺伝子解析学、病理解析学、細胞・免疫解析学、腫瘍制御学

学・研究機関における検査医学分野の教育・研究者を養成することを目的としています。

医用検査学領域における博士前期課程への平均入学者数(平成18~29年度まで)は、2.4名で(他大学を含む場合は3.8名)、博士後期課程に関しては、6名がこれまでに入学しており、そのうちの3名(うち社会人1名)が博士(保健学)を授与されています。

おわりに

現在、医学の進歩はめざましく、臨床検査へのニーズも多様化・専門化しており、これらのニーズに迅速かつ正確に対応できる臨床検査技師の養成が急務となっています。一方、教育現場では4年制大学への移行が進んでおり、さらに大学院での教育・研究の充実の必要性が考えられています。

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻では、学部教育で目指す臨床検査技師教育として、Reversed CPC やチーム医療などを通して検査値の読める、積極的に診断に関わることができる臨床検査技師の養成、大学院教育では、高度な専門知識・技術力や応用力・観察力・洞察力・科学的な論理的思考力などの研究能力を身に付け、保健・医療分野等で活躍できる臨床検査技師、教育・研究者の育成をはかりたいと考えています。

文 献

- 1) 徳島大学医学部保健学科概要2018.
- 2) 徳島大学医学部概要2018.
- 3) 徳島大学医学部保健学科・大学院保健科学教育部ホームページ.

http://www.tokushima-u.ac.jp/med/health_science/